

個性と自由を尊重する成蹊教育で 尊い心を磨きながら人間を育ててきた100年



武蔵野 History

武蔵野にまつわる歴史を
楽しみながら学ぶ

吉祥寺に緑豊かなキャンパスを持ち、小学校から大学までを備える成蹊学園は今年で創立100周年を迎えます。個性と自由を重んじる「成蹊教育」は大正デモクラシーの時代に開花しました。理想の教育を追求した中村春二と彼を支えた人々によって育まれた、人間の心の底に持っている尊い心を引き出す人間教育は今も受け継がれています。

理想に燃えた教育者、中村春二^{はるじ}
親友たちの支援で独自の教育を展開

成蹊学園の創立者、中村春二は明治10（1877）年に東京の神田猿樂町に生まれました。春二は東京帝国大学文科大学国文科に在籍しているときから、曹洞宗第二中学校（現・世田谷学園）で講師をしており、卒業後はいくつかの学校で教鞭を執ってきました。しかし春二には、当時の教育が決められた内容を詰め込む画一的な教育に思え、また、貧しい家庭の子どもの教育を受けられない状況を憂っていました。

このような思いを持った春二は、子どもたちの個性を伸ばし、貧しい子どもたちにも教育の機会を与える私塾「成蹊園」を明治39（1906）年、開塾しました。春二は弱冠29歳。財政的に彼を支援したのは、高等師範学校附属中学校時代の友人、今村繁三と岩崎小弥太でした。

今村は今村銀行の、岩崎は三菱財閥の跡継ぎであり、ともにイギリスに留學し欧州の先進的な教育を体験していました。二人は春二の教育理念に共感し、「成蹊園」の開塾以降、有形無形の援助をしていくようになります。

人間形成に重きを置いた春二の教育は、後に「成蹊教育」と呼ばれます。その評価は次第に高まり、明治45（1912）年には、教育の充実を図るために「成蹊実務学校」を創立します。その後も、春二は中学校や尋常小学校、実業専門学校、女学校を創設していきま

した。「誰の心の奥底にも尊い心がある。向上の精神を持ち続け心の力を発揮できれば、大きな社会貢献ができる」

その信念を持ち、教育を実践していくなかで春二は「成蹊教育会」を立ち上げ、自らの教育法を全国に広げていきました。

国際化や情報化など現代の要請に応える
「新・成蹊創造プラン」を実施

春二の展開した成蹊教育は、やはり個性尊重や少人数教育を掲げたほかの新しい教育とともに「大正自由教育」と呼ばれました。世の中も、一部の藩閥層が支配する専制的な体制を打ち壊そうと大正デモクラシーに湧いていました。しかし、大正7（1918）年の第二次世界大戦の終結を機に世界は大不況へと突入。新しい教育の理想に燃えた春二も学校経営の苦難に遭いながら、病を患っていきます。そして、大正13（1924）年には春二が逝去するという悲痛な事態に見舞われました。

奮起したのは春二とは十代からの親友であり、三菱財閥の総帥であった岩崎小弥太でした。岩崎は、同年に多額の資金を投じて吉祥寺に約8万坪の敷地を用意し、鉄筋コンクリートの校舎を建て、

むさしの今昔物語 ～成蹊学園の巻～

中村春二は個性と自由を尊重した人間教育を実践するために、独自の教育法を考案しました。成蹊学園では今も、春二の理念を受け継ぎながら、現代に合ったかたちでの成蹊教育を実践しています。

昔



「概念」。中村春二が考案したこの精神集中法は、現在も変わらず小学校、中学・高校で実践されています。

今



中村春二は教室での勉強だけでなく、課外での体験や作業も大切にしました。現在、小学校、中学校では「夏の学校」として、登山や自然観察を行い、体を鍛えながら大自然に親しみます。



吉祥寺に移設当時の成蹊学園。本館は現在と同じ建物。

女学校以外の各学校を池袋から移転させたのです。

その後、昭和に元号を変えた日本は国際社会との溝を深めていきます。太平洋戦争が始まり、昭和18（1943）年6月には学園内の体育館に軍需工場として三菱電機成蹊工場が設置されました。生徒たちは、この工場や陸軍立川獣医資材廠、海軍技術研究所などに学徒動員されました。昭和19（1944）年の秋には陸軍航空本部が成蹊学園本館を接収し、学園の敷地には敵の爆撃を迎え撃つ高射砲が配備され、空襲の度に爆音をたてながら砲弾が発射されました。昭和20（1945）年8月15日に戦争は終わりましたが、その後も、三菱財閥の解体、理事長だった岩崎小弥太の死去、財政難など苦しい時期が続きました。

戦後、成蹊学園の大きな決断は、昭和24（1949）年の大学設置です。昭和

22年に施行された学校基本法によって、日本の学制は6・3・3・4年制となり、時代に合致したシステムを導入するべく、成蹊学園は、大学設置を決断し、成蹊大学が誕生しました。

成蹊大学では地域との関係を大切にしてきました。昭和37（1962）年の市政講座への協力や昭和56（1981）年からのシルバー聴講生の受け入れ、そして現在は地域自由大学に参加し、講座を開いています。また学部の授業では、市の地域づくり施策を研究するゼミを設けたり、学生たちも地域イベントに積極的に協力しています。

今年、中村春二が成蹊実務学校を創立してから100年を迎えます。この間世の中は大きく変化しています。そんな変化の時代だからこそ、春二の提唱した、人間性を大切にし、個性を伸ばす「成蹊教育」が意味を持つといえるでしょう。成蹊学園では現代の要請に応える成蹊教育を実現することを目的に、平成16（2004）年から「新・成蹊創造プラン」を実施してきました。小学校での28人・4学級制の導入、奨学金制度の拡充、国際教育センターの開設、大学での新しい学部・学科開設と成蹊教養カリキュラムの導入などさまざまな変革が行われてきました。成蹊学園の挑戦は今も続いているのです。